

# 株式会社海帆

再生可能エネルギー事業説明資料



再生可能エネルギー事業の現在地と未来

# 日本のクリーンエネルギー を、実装する会社へ

「海帆は、参入フェーズを終え、  
日本のエネルギートランジションの最前線に立つ  
**実行者**へと進化しました。」

## 海帆の再エネ事業は、確実な**実行フェーズ**へ移行しています



### 枠組みの構築

2022年10月 KR ENERGY JAPAN設立。  
長期PPAを軸とした事業基盤を確立。



### 事業の骨格

グローバルIT企業向け Non-FIT低圧太陽光  
**31.35MW-DC / 約330件**を確保。



### 進捗と実績

2024-2025年、取得・建設・売電が  
着実に前進し、収益化が開始。



### 領域の拡張

**蓄電池・ネパール水力・アグリゲーション**  
内製化による多機能化へ。

### 💡 投資仮説

「長期PPAに裏打ちされた再エネ収益基盤を、  
本当に量産化できるか」

### 🎯 注目標

確保済みの**330件**の案件を、  
どれだけ速く「連系・売電」に移せるか

2022

参入

## 10月 KR ENERGY JAPAN設立

再エネを新たな収益基盤として位置づけ、事業への本格参入を開始

2023

骨格形成

## グローバルIT企業と長期PPA締結

KRエナジー1号を連結化し、事業推進体制を構築

2024

初期稼働

## 3月末：121件取得、26件売電開始

資金調達・系統連系のボトルネックを認識し対策へ

2025

拡張

## 3月：132件取得、99件売電開始

7月：161件取得、120件売電開始  
蓄電池事業開始、ネパール水力再開

Q3：229区画取得、145件連系済み

2026

実行検証

## 2月：330件相当100%契約完了

3月：連結子会社による系統用蓄電池事業の参入

4月：どんぐり電力株式取得  
本格収益化フェーズへ移行



## グローバルIT企業との長期PPAが描く、安定収益の地図

⚡ 総発電容量

**31.350** MW-DC

系統連系容量：16.335 MW-AC

田 案件数

**約330** 件

国内Non-FIT低圧太陽光発電所

主要需要家 (Off-taker)

グローバルIT企業

## 進捗状況の推移

※ 2026年3月時点情報に基づく

時点	取得状況	売電開始 / 連系済み
2024年3月末	121件	26件
2025年3月末	132件	99件
2025年7月	161件	120件
<b>FY2026 Q3 (2025/10~12月)</b>	<b>229区画</b>	<b>🟢 145件 連系済み</b>
2026年2月	100%契約完了	-



ここが勝負の分かれ目

**100%案件確保 連系・売電速度の加速**

## 📍 次の成長エンジン —— 3つの新領域



NEW

### 蓄電池事業

2025年6月 事業開始  
(取得総額 6.16億円)

運転開始予定：**2027年6月**

年間売上寄与見込：  
**約5.7億円** (2028/3期以降)

- GreenRockと連携し AI/データセンター需要を取込み世界的半導体メーカーとのPPA契約を目指す



GLOBAL

### ネパール水力発電

**8か所**の発電所を建設 (2026-2033年に順次)

2025年12月 事業再開を決議

長期・安定的な再エネ電源として国際展開を推進

**カントリーリスクを適切に管理**



INTERNALIZATION

### アグリゲーション内製化

どんぐり電力 株式49%取得  
(2026年3月)

外注から内製へ転換し、**マージン改善**を図る

将来は蓄電池・小売と統合し  
垂直統合モデルを確立

売上高の成長

約28倍↑

3百万円 → 85百万円

赤字幅の縮小

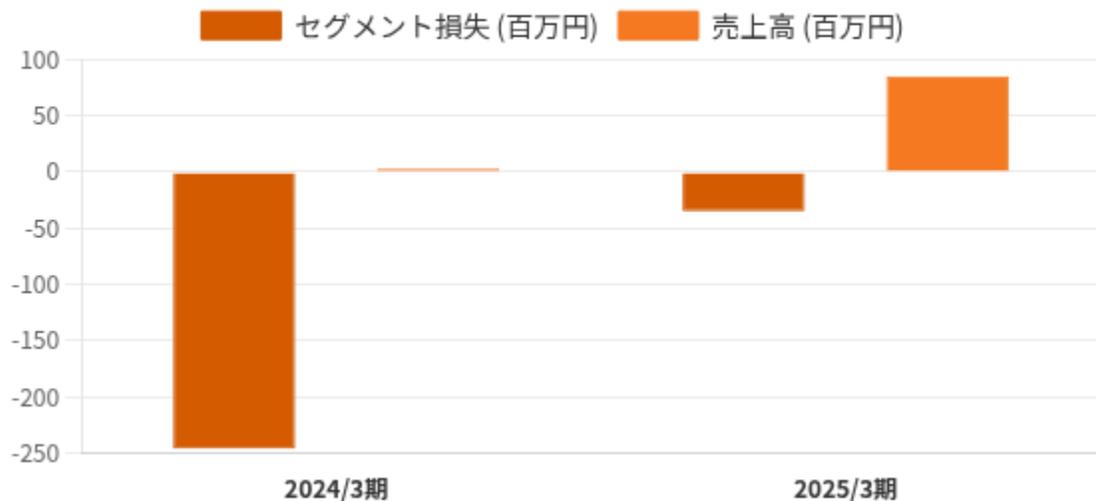
86%改善

▲2.46億円 → ▲0.35億円

## KEY MESSAGE

PPAが積み上がるほど、  
収益は積み上がる。  
—— 稼働件数が全て

財務パフォーマンス推移



## 課題認識と対応

- PPA期限の延長  
(2025年8月合意済、スケジュール調整中)
- 旧資産譲渡契約の取消し  
(2026年3月開示、契約関係の整理)
- 系統連系ボトルネックの継続的管理  
(連系待ち案件の早期稼働へ注力)

※ 単位：百万円 (2024/3期 vs 2025/3期)

## ✓ ベースシナリオ

### 太陽光の計画的進捗

連系・売電がスケジュール通り進行

### マージン改善

どنگり電力内製化効果の発現

**黒字化達成** 2027年3月期 再エネセグメント黒字化

## 🚀 アップサイドシナリオ

### パイプライン拡大

GreenRock等との提携による案件増

### AI/DC需要の獲得

データセンター向け大型PPA受注

### 調整力サービス事業化

蓄電池稼働による新たな収益源

### 海外収益の早期化

ネパール水力の早期稼働・売電開始

## ⚠️ ダウンサイドシナリオ

### ペナルティ発生リスク

資金調達・連系遅延に伴う違約金

### カントリーリスク顕在化

ネパール事業の政情・法規制変化

### 収益計画の遅延

稼働件数目標の未達による下振れ

MONITORING

注目KPI

### ⚡ 稼働状況

連系済み件数  
売電開始件数

### 📊 実績値

年間発電量 (MWh)  
売電収入推移

### 📄 契約履行

PPAペナルティの有無  
納期遵守率

### 🏦 投資実行

蓄電池・ネパール事業の  
資金実行状況

## 「夢のある計画」から「数字で証明する実行者」へ

海帆への投資は「ストーリー」ではなく「実行」を買う段階に入った

- ✓ **連系済み件数は計画比で増加しているか**  
ボトルネック解消と工事進捗のスピード感を確認
- ✓ **売電開始件数と年間発電量は伸びているか**  
収益の源泉となる稼働実績の積み上げを注視
- ✓ **どنگり電力内製化による粗利は改善しているか**  
外注費削減効果とマージン改善の実効性
- ✓ **蓄電池・ネパール事業は「計画」から「実行」へ**  
新規事業が単なるIR発表で終わらず進捗しているか
- ✓ **資金調達・PPAペナルティで財務圧迫は起きていないか**  
健全なキャッシュフローとリスク管理状況の確認

“

330件の発電所を一つひとつ繋いでいく海帆の実行力が、新しいエネルギー産業の地図を書き換える。

日本のエネルギー転換は、大企業だけが担うものではない。

海帆の再生可能エネルギー事業は、太陽光発電による売電事業から、**エネルギープラットフォーム型ビジネス**へ進化していく。

## 再エネ発電基盤の確立

Phase 1

- 国内Non-FIT太陽光発電所の開発
- 長期PPAによる安定売電
- 発電所ポートフォリオの拡大



 安定した再エネキャッシュフローを構築

## 電力価値の最大化

Phase 2

- 蓄電池による調整力事業
- アグリゲーション機能の内製化
- 発電～売電の垂直統合



 再エネ電力の付加価値を最大化

## 次世代電力需要への対応

Phase 3

 AI・データセンター等の電力需要

- 長期PPAの拡大
- 再エネ電源ポートフォリオの拡張



 企業向け再エネ電力供給の拡大

## 発電所を作る会社から、電力価値を創出する会社へ

海帆は、日本のエネルギートランジションを実装する企業へ進化する。

## 主な参照資料一覧

分析期間：2023年1月～2026年3月

2024年3月期～2026年3月期 決算短信および決算補足説明資料 (2023.05 - 2026.02)

グローバルIT企業との長期売電契約(PPA)に関する開示 (2023.01 - 2025.08)

蓄電池事業の開始および資産取得に関するお知らせ (2025.06)

ネパール水力発電事業の再開および投資に関する決議 (2025.12)

株式会社どんぐり電力の株式取得（子会社化）に関するお知らせ (2026.03)

### i 表記に関する注記

PPA対象容量について、参照資料によって「16.335MW-AC」と「16.397MW-AC」の表記揺れが見られますが、本資料では主要な開示資料で使用されている「**16.335MW-AC**」を採用して分析・記載しております。

### 免責事項

本資料は、公開情報（IR資料等）に基づき作成された分析サマリーです。情報の正確性、完全性を保証するものではありません。

本資料に含まれる将来の予測に関する記述は、作成時点での一定の前提に基づくものであり、実際の結果とは異なる可能性があります。

投資判断は、ご自身の責任において行っていただきますようお願いいたします。